

2023年度 須磨学園夙川中学校入学試験

国 語

第 2 回

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、
受験番号シールを貼り、受験番号と名前を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 字数制限のある問題については、記号、句読点も 1 字と数えること。
4. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

学校法人 須磨学園 夙川中学校

※この冊子は再生紙・ベジタブルインキを使用しています。

一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

私は、生後すぐに高熱が出たことなどが原因で脳性麻痺^{注1}となりました。手足が不自由なため、中学生の頃から車椅子^{くるまいす}を使っていて、日常生活を送る上では他者の介助^{注2}が欠かせません。

私が生まれた一九七〇年代には、脳性麻痺は早期^{注3}にリハビリをすれば九割は治ると言われていました。このため、私の親は私が物心つく前から、膝立ち^{ひざご}の仕方、寝返りの打ち方、茶碗^{ちawan}の持ち方など、毎日五、六時間にも及ぶ厳しいリハビリをさせました。すべては、私をできるだけ健常者に近づけ、独り立ちできるようにしようという、愛情ゆえにしたことです。

10 ところが一九八〇年代に入ると、脳性麻痺は治らないという医学論文が発表されたのです。そして、それにコオウ^{注4}するかのよう^アに障害そのものに対する考え方が一八〇度変わり、「障害は身体の中ではなく外にある」という考え方がスタンダードになりました。例えば、私が二階に行けないのは私の足に障害があるからではなく、エレベーターがないからだ。だから、社会や環境^{かんきよう}の側を改善していこう、と考えるわけです。

こうした考え方が広がると、街中で障害を持つ人に出会う機会がカクタン^bに増えました。それまで私は常に親と二人三脚^{ににさんきやく}の生活をしてきたため、「親が死んでしまったら自分も生きていけなくなるのではなかいか」という不安を幼い頃から抱えていました。ところが、街で見かける人の中には自分より重そうな障害を持った人もいる。その人達^たが^なありのままの姿で自由に暮らしているのを見て、「リハビリをしても治らないけれど、健常者にならなくても社会に出られるんだ」というカクシン^cが芽生えたのです。

25 それ以来、親が生きている間に親亡き後^{注5}をシミュレーションしておきたい、そのために一人暮らしをしようと、強く思うようになりまし^イた。当然のことながら親は大反対し、母がついてくると言いました。それならば、親がヨウイ^dには来られない場所に行くしかない。それで、山口県から東京の大学に進学したのです。

30 親は、「社会というのは障害者に厳しい。障害を持ったままの状態^{じたい}で一人で社会に出したら、息子^{むすこ}はのたれ死んでしまうのではないか」と心配していたようです。でも、実際に一人暮らしを始めて私が感じたのは、「社会はアンガイ^eやさしい場所なんだ」ということでした。

35 大学の近くに下宿していたのですが、部屋に戻ると必ず友達^{とも}が二、三人いて、「お帰り」と迎^{むか}えてくれました。いつの間にか合^あい鍵^{かぎ}が八個も作られていて、みんなが代わる代わるやってきては好き勝手にご飯を作^{つく}って食べていく。その代わり、私をお風呂^{ふろ}に入れてくれたり、失禁^{注6}した時は介助してくれたりしました。

40 また、外出時に見ず知らずの人にトイレの介助を頼^{たの}んだことも

あります。たくさんの方が助けてくれました。こうした経験から次第に人や社会に関心を持つようになり、入学当初目指していた数学者ではなく、医学^ウの道を志すことを決めたのです。

45 それまで私が依存^{いそん}できる先は親だけでした。だから、親を失えば生きていけないのでは、という不安がぬぐえなかった。でも、一人暮らしをしたことで、友達や社会など、依存できる先を増やしていけば、自分は生きていける、自立できるんだということがわかったのです。

「自立」とは、依存しなくなることだと思われがちです。でも、そうではありません。^エ「依存先を増やしていくこと」こそが、自立なのです。これは障害の有無^{うむ}にかかわらず、すべての人に通じる普遍的な^{ふへんてき}ことだと、私は思います。

(熊谷晋一郎の文章による)

注1 脳性麻痺……母親のお腹にいるときから生後4週間までの間におきた脳の損傷による運動機能の障害のこと。

注2 介助……自分で行える動作やその周辺に対してその動作がうまくいくように手助けをすること。

注3 リハビリ……リハビリテーションの略。運動機能を通常の状態に近づけるために訓練をすること。

注4 スタンダード……標準。基準となるもの。

注5 シミュレーション……現実に実行が難しいことを現実に起こつたと想定した状況を創り出して、分析や検証をすること。

注6 失禁……おもらし。

一 の設問

問一 〜〜〜線部 a e のカタカナを漢字で書きなさい。

問二 「障害は身体の中ではなく外にある」(――線部ア)とありますが、それはどういうことですか。次の空欄(くうらん)にあてはまる本文中の言葉を書き抜きなさい。ただし、

と

は十字の言葉が入ります。

障害は

者の

に問題があると考えerるのではなく、

する必要があるということ。

問三 「一人暮らしをしようと、強く思うようになりました」(――線部イ)とありますが、それはなぜですか。一〇〇字以内で説明しなさい。

問四 「医学の道を志すことを決めたのです」(――線部ウ)とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 社会は障害者に対して優しくあるべきであるにもかかわらず、実際は障害者に対して厳しく、一人暮らしをしてみると様々な苦労があるため、一人で生活していくことに困難を感じてしまったから。

2 社会は障害者に対して優しい場所であるべきと考えていたが、実際に一人暮らしをしてみると様々な困難があり、多くの人の手助けや親切によってはじめて生活できることに気がつくことができたから。

3 社会は障害者にとって生活しにくい場所であると考えていたが、実際に一人暮らしをしてみると想像以上に多くの助けを得ることができるところであるということに気づき、社会に興味をもつようになったから。

4 社会は障害者が工夫することで生活できる場所であると考えていたが、実際に一人暮らしをしていくと工夫するだけでは生きていけないとわかり、社会により興味をもつことができるようになったから。

5 社会は障害者に対して厳しい場所であり、実際に一人暮らしをしてみると、様々な手助けをしてもらわなければ一人で生活することは難しいと知り、社会に興味を持たなければならぬと考えたから。

問五 「たくさんの方が助けてくれました」(――線部)とありますが「人に親切にすれば、その相手のためになるだけでなく、やがてはよい報いとなって自分にもどってくる」という意味のことわざをひらがな十二字で答えなさい。

問六 「依存先を増やしていくこと」こそが、自立なのです」(――線部エ)とありますが、なぜこのように言えるのですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 これまでは親に頼らずに一人暮らしをしていたが、親に頼ることができる人の方が最終的に社会の中で自立できる場所を持つことができるということに気づいたから。

2 これまでは親だけに頼って一人暮らしをしていたが、本当の意味での一人暮らしを成立させるためには親以外の多くの人から助けを得ることが必要であるということに気づいたから。

3 これまでは親に頼ることしか知らなかったが、一人暮らしをする中で多くの人に支えてもらい、親以外にも助けを得られる人や場所を増やすことが自立につながることに気づいたから。

4 これまでは親に頼ることで一人暮らしを成立させていたが、いろいろな場所に行き、たくさんの方の助けを得られる場所の存在を知ること生活で豊かにできることに気づいたから。

5 これまでは親に頼る必要はないと考えていたが、一人暮らしを経験して、知らない人からの助けよりも親に助けをもらうことの方がより良い生活につながると気づいたから。

【二】 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

ある朝、起きてきたちんたんはまだ眠^{ねむ}そうだった。おはようと挨拶^{あいさつ}しても返事をせず、ガスヒーターの前に座り込んで、こちらを見ようもしない。

まあ仕方ない。僕は朝ご飯をお皿に用意して、テーブルに置いてやった。すると、ちんたんが何やらぶつくさ言っている。小声^{こせい}なのでよく聞き取れない。近づいて

「**X**を傾^{かたむ}けてみると。
ア「ぼく、食べられないよ？」

「え、どうして。今日はおにぎり食べたくない気分？ それとも、もう少し温めた方がいいかな」

10 ふると首を横に振る。そしてもう一度、恨めしそうな顔でこちらを見た。

「食べられないよ？」
そう言って、お皿に向かって手を軽く上げてみせた。

届かないから、ここまで持っていこうというらしい。テーブル
15 ルまではほんの三十センチほどのな。

「**イ**思わず頭に血が上った。
「自分で取りなさい！」

そう叱^{しか}りつける。それでも不満そうにしているのを見て、僕は
「そんなことも自分でできないなら、食べなくてもいいよ」とお

20 皿を取り上げてしまったのだ。
また別の日には、こんなことがあった。

「誰^{だれ}か、水ください」
ちんたんはもう、自分で水道の蛇口^{じゆぐち}からコップに水を汲^くめる。

25 「いいよ」
でも僕は食事の手を止めて立ち上がり、水を汲んでくる。

「はいはい。水ですよ」
「ありがとう、お父さん」
「ストローはある？ 青のしかないけど」

30 「赤がいい」
「赤かー。どっかにあったかな」
引き出しをあちこち漁^{あさ}り、ストローを探し出してやる。そうこ

うしているうちに、たっちゃん「う、う！」と声を上げ、お皿
を遠ざけようとする。

35 「あらー。今日はご飯食べたくないの、君」
たっちゃんは棚^{たな}の方へと駆^かけていき、上を指さして「う、う！」
と訴^{うった}えかけてきた。お菓子^{かし}が入っているのを知っているのだ。

「しょうがないな、おせんべ一枚^{まい}だけね。あとはご飯食べてから
だよ」
40 あっさりと渡^{わた}してしまう。たっちゃんはパアツと笑い、嬉^{うれ}しそ
うに齧^{かじ}り始める。僕はもう一枚を手に取り、こう言う。

「たっちゃんだけだと不公平だから、ちんたんもおせんべどうぞ」

何^{ナニ}というダブルスタンダードであろう。厳しかったり、甘^{あま}かつ
たり、どちらかにすべきではないか。

45 「その時その時でいいんじゃないの。たまには厳しくするのもい
いし。たまには甘やかしてやらないと。それも教育だよ」

妻はそう言ってくれるのだが、僕は何も教育のためにそうして
いるわけではない。原因はわかっているのだ。

叱^つりつけた時は、仕事がたくさん重なり、徹夜^{てつや}で作業をしてい
た朝。甘やかした時は、仕事が一付いた休日の午後なのだ。

「仕事がしんどいと、世界が全部敵^{てき}に見えて、意地悪^{いぢあく}されている
ような気がするんだよ。だから理不^{りふ}尽^{じん}なことを言われると腹が立
つし、厳しい世界でも生き抜^ぬけるよう、しっかり教育しなくちゃ
ならないと思うんだ。で、仕事が一付くと、世界が全部味方で、

55 祝福^{しゅくふく}してくれているような気がするの。みんなをいっぱい甘やか
して、おせんべもあげて、生きるのって楽しいぞーって教えなく
ちゃと思う」

「なるほど」
僕は妻に聞く。

60 「どうしたらいいんだろう」
「世の中にはそういう人もいるっていう教育になるから、それで
いいんじゃない」

自分ではもう少し大人になったつもりだったが、**キ**それほど差は
なかったらしい。これもまた発見である。もししたら**すべ**全ての人

65 がお腹^{なか}いっぱい、ぐっすり眠れていて、健康ならば、地球もだ
いぶ平和になるのかも、などと思いを馳^はせた。

結局のところ、世界の見え方は自分の気持ち次第^{しだい}なのだろう。
「さあ、早く早く。入学式に間に合わないよ」

70 慌^{あわ}ててみんなの家を出て、学校に向かう途中^{とちゆう}、ちんたんがはた
と立ち止まった。
「ちよっと、何してるの？ 急がなきゃ」
そう言っても微動^{びどう}だにしない。**ク**瞬^{まはた}き一つせず、目の前の光景を
見つめている。

75 いい天気で、桜の花が少し散り始めていた。はらはらと花びら
が落ちてくる。風がさーっと吹き抜^ぬけて、あたり一面に花びらが
渦^{うず}を巻いていく。

「わあっ……」
一年生になった朝、ちんたんは花吹雪^{はなふぶき}に**Y**を打たれていた。

80 時間はぎりぎりだったけれど、**ケ**僕はちんたんが自分で歩き出す
まで待った。その気持ちで桜を見上げられる日は、そう何度もな
いはずだから。

（二宮敦人「ぼくらは人間修行中」による）

二の設問

問一 本文中の X、 Y に当てはまる漢字一字をそれぞれ答えなさい。

問二 「ぼく、食べられないよ?」(――線部ア)とありますが、これはどのようなことを言おうとしているのですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「僕」がわざと手の届かない場所にお皿を置いたことが腹立たしいので、手前の方に動かしてほしいということ。
- 2 すでにお腹がいっぱいになっていたので、せっかく用意してくれた食事ではあるが片付けてほしいということ。
- 3 朝ご飯のメニューが自分の好みに合わず、納得がいかなかったので、おにぎりに変更してほしいということ。
- 4 眠くて体を動かすのが面倒で、朝食のお皿に手が届かず食べられないので、お皿を近づけてほしいということ。
- 5 準備するのに時間がかかったせいですっかり冷めてしまった朝ご飯を、すぐに温めなおしてほしいということ。

問三 「思わず頭に血が上った」(――線部イ)とありますが、「僕」はこの原因はどのようなことにあると考えていると考えられますか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 仕事がいくつも重なり、徹夜で作業をしていたこと。
- 2 自分に対してちんたんが不満そうな顔をしていたこと。
- 3 教育のための指導が届いていないことに気が付いたこと。
- 4 すんなりと会話が進まないことにいらだっていたこと。
- 5 機嫌よく朝の準備を進めていたのを邪魔されたこと。

問四 「お皿を取り上げてしまったのだ」(――線部ウ)とありますが、「僕」はちんたんにどのようなことを期待してこの行動をしたのですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 長男なのだから自分でできることは自分ですべきだということに気が付くこと。
- 2 手をのばせば届くものを父親に持ってこさせようとしたわがママを反省すること。
- 3 毎朝忙しい中でも朝食の支度してくれる家族に対して心からの感謝をすること。
- 4 すぐにふてくされた態度をとるのではなく、相手の行動の意図を理解すること。
- 5 誰かにお願いを聞いてほしいときには、頼み方やタイミングを配慮すること。

問五 「もう」(――線部エ)とありますが、この言葉には「僕」のどのような思いが込められていますか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 わざと丁寧な言葉を使うことで父親である自分に甘えたがつている気持ちを感じてあきれている。
- 2 親の言うことをきちんと聞いて行動できる利口な子どもに育ったことに満足している。
- 3 もう少し親として世話をしたかったのに、手から離れつつあることを名残惜しんでいる。
- 4 いっしょに蛇口をひねっていた様子を思い出しながら親子の関係の変化を愛おしんでいる。
- 5 親の視点からすでに自分で水を汲めるほどの年齢に成長したことをしみじみと心を感じている。

設問は、裏面に続きます。

問六 「「う、う！」と声を上げ、お皿を遠ざけようとする」（——線部オ）とありますが、「僕」はたちちゃんがどういうことを言いたいのだと認識（にんしき）していますか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 もっといいものがあるはずだ。
- 2 ご飯はもう食べたくない。
- 3 お皿があると座（すわ）りづらい。
- 4 ごちそうさまでした。
- 5 ご飯よりもお菓子を食（た）べたい。

問七 「ダブルスタンダード」（——線部力）とありますが、「ダブルスタンダード」とは一つの事に対して二つの基準で評価することです。「僕」はどのような点が「ダブルスタンダード」だと思っていますか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 教育のために「たちちゃん」だけでなく、「ちんたん」にも優しく接している点。
- 2 「僕」にとっていいことがあると食事の前にお菓子を食べてもいいという許可を出す点。
- 3 子供たちのわがままに対して明らかに基準がなく、時には厳しくしたり、甘やかしたりする点。
- 4 場合によって冷静にふるまうときもあれば、気分まかせに好き勝手にふるまうこともある点。
- 5 父親のはずなのに、目の前の子どもたちを気にするよりも自分の気分を優先させることがある点。

問八 「それほど差はなかったらしい」（——線部キ）とありますが、これはどのような点を指していますか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 はっきりした基準を持って常に落ち着いた対応をしている点。
- 2 自分の気持ちに振り回されて家族に迷惑（めいわく）をかけてしまう点。
- 3 自分が追いつめられてしまうと冷静な判断ができない点。
- 4 家族を思うあまりに、自分をないがしろにしてしまう点。
- 5 ひとりでは正しい行動をとることができず、家族を頼（たの）ってしまふ点。

問九 「瞬（し）き一つせず」（——線部ク）とありますが、これはちんたんのどのような様子を表していますか。二十五字以内で説明しなさい。

問十 「僕はちんたんが自分で歩き出すまで待った」（——線部ケ）とありますが、「僕」がちんたんを待ったのはなぜですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 入学式は人生に何度か経験することになるが、桜の花吹雪（はなふぶき）を目にする機（き）会はこれが最後かもしれないから。
- 2 小学生になったら、周りを見て動ける人間になればならないことに自分で気づいてほしかったから。
- 3 桜の美しさに夢になる時間はよりよい成長のために、入学式に遅刻（ちこく）しないことよりも優先すべきと考えたから。
- 4 入学式に遅刻しないために急いでいたが、桜の美しさに見惚（ほ）れることができる時間を大切にし、見守ろうと思ったから。
- 5 遅刻してはいけないと慌（あわ）ててはいたが、機嫌（きげん）もよかったのでちんたんのわがままを許してやろうと思ったから。



受 験 番 号		

名前	
----	--

[illegible][illegible]